

帰化選手がサッカー日本代表を強くする

A naturalized player builds up Japan national football team

1K07B069-4

木村 泰

指導教員 主査 太田 章 先生

副査 葛西 順一 先生

序章

南アフリカW杯でサッカー日本代表はベスト16位という歴史的快挙を成し遂げた。この結果に大きく貢献した選手の1人に帰化選手、田中・マルクス・闊莉王がいる。帰化選手が日本代表に貢献した最も新しい一例だ。思い返してみれば、ドイツW杯、日韓W杯では三都主アレサンドロが、フランスW杯では呂比須ワグナーが、もっと遡れば、アメリカW杯予選ではラモス瑠偉が帰化選手として日本代表の主軸として活躍した。

外国人を帰化させ代表を強化させる案については賛否両論が昔からある。Jリーグでの外国勢の活躍、代表での貢献度を見れば、帰化選手は必要だと思う賛成派、本当に純血の日本人じゃない人が日本の代表になっていいのか、愛国心はあるのかなどと考える反対派の議論は今後も続いていくと思われる。

この論文では日本の国籍、帰化に関する事情に始まり、これまで日本のサッカー界に貢献する帰化選手、外国人選手、また、海外の代表の帰化問題について言及し、最終的には、帰化選手がサッカー日本代表強化に繋がり必要だということについて述べたいと考えている。なお、本論文は主に文献資料によるものとする。

第1章 国籍法と帰化制度

国籍を持つことで始めてその国の国民と認められるのが現代社会だ。当然、国籍を取得していなければ、国の代表としてサッカーをすることなどできない。そのために帰化制度というものを利用する外国人が出てくる。国籍法、帰化制度ともに、国によってその形は微妙に違っている。国籍法の違いをおおざっぱに挙げれば、生地主義と血統主義が出てくる。帰化にも種類が3つほどあり、普通帰化、簡易帰化、大帰化と言われている。FIFAでも帰化や国籍問題について言及していて、サッカーと帰化選手の問題は日本だけではない、グローバルな問題になっている。

第2章 日本サッカーと帰化

日本サッカー界のために尽力した帰化選手は何人かいる。代表的な選手としてはネルソン吉村、ジョージ与那城、ラモス瑠偉、呂比須ワグナー、三都主アレサンドロ、田中マルクス闊莉

王だ。また、Jリーグに所属する帰化選手に成り得る外国人選手の活躍もある。Jリーグの5チームを例に挙げるとそのチームの得点源はほとんどが外国人だ。そして、JFAがJリーグで活躍した選手に様々な賞を与えるJリーグアウォーズでは、毎年、最優秀選手賞、ベストイレブン賞、得点王賞のどこかに外国人選手が入っている。

第3章 外国のサッカーと帰化

カタール代表は多国籍軍団といわれ、オイルマネーによる潤沢な資金を背景に代表になるために帰化した選手に対し報酬を払うと聞く。帰化とは違うが移民の多いフランス代表は1998年の優勝した当時のメンバーの約半が移民選手だった。W杯で常に好成績を収めているドイツ代表でさえも、主力を中心に移民選手が活躍している。帰化選手、移民選手も純血でないという点では同じであり、サッカー強豪国の成功例や、近年力をつけた国の例は今後の日本サッカーに影響を与えるだろう。

第4章 帰化選手に対する賛否両論

日本では2009年に、ジュニーニョの帰化が少し話題になった。決定力不足と言われた当時の代表としては喉から手がでるほど欲しい逸材だっただろう。ドイツでも帰化選手に対する問題はあった。しかし、時が経つにつれ、国籍法の改定や国民構成の変化に伴い帰化選手に対する国民の見方も変わっているようだ。

考察

帰化には、その煩雑な手続きに加え、日本他の国民の感情など複雑な事情が絡みあっていて、そう容易く国籍を変える決意はできない。帰化選手は今後サッカーに関わらず様々なスポーツで現れてくるだろう。グローバル化が進む中で日本もより世界と繋がり、外から物、人が入ってくるのだ。時代の流れ、そして、サッカー日本代表強化という面からも私は帰化選手の存在について賛成であり、日本サッカーを強化する最も効果のある方法は帰化選手を多くすることではないかと考える。今後のFIFA、JFAの対応に期待したい。